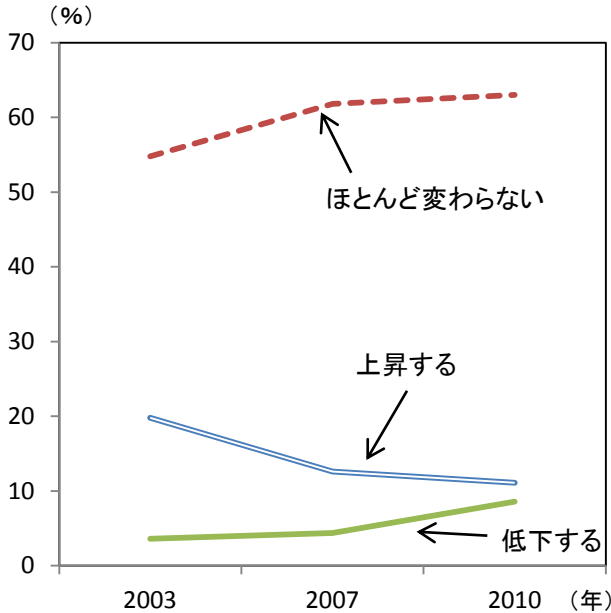


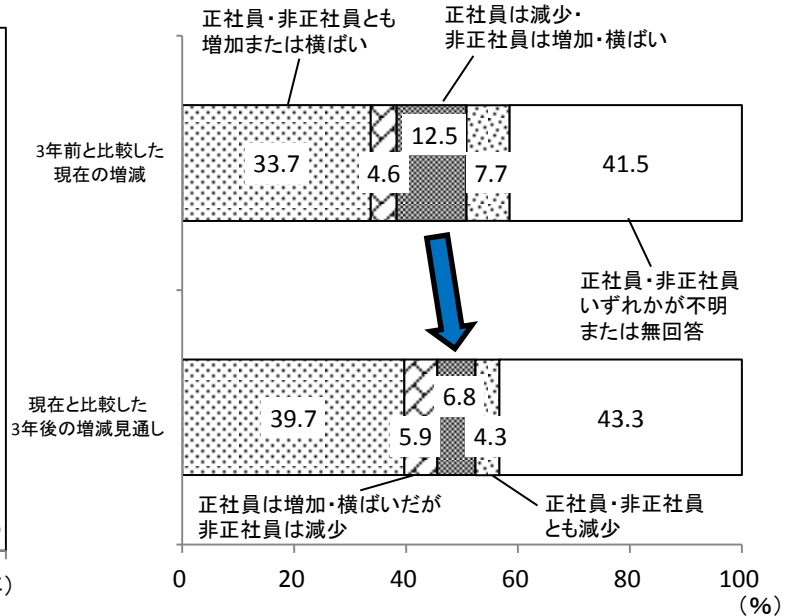
## 今後の非正規雇用者の見通し

今後に対する企業の意識をみると、非正規雇用の増加傾向には変化の兆しがみられる。

(正社員以外の労働者比率の今後の変化予想(事業所割合))



(正社員・非正社員の3年前と比較した増減推移と3年後の増減見通し)



資料出所 厚生労働省「就業形態の多様化に関する総合実態調査」

(独)労働政策研究・研修機構「今後の企業経営と雇用のあり方に関する調査」(2012年)

### (これまでの正規雇用者減少、非正規雇用者増加の傾向に変化の兆し)

- 2011年の非正規雇用者は前年差46万人増の1,802万人、非正規雇用比率は前年差0.7ポイント上昇の35.1%となった。
- 企業が非正規雇用を活用する理由は賃金の節約や雇用量の柔軟な調整が多いが近年では高齢者の再雇用対策としての活用も増えている。
- 非正規雇用の労働者が主体的に非正規雇用として働くことも多いが、正社員として働ける会社がないという理由でやむを得ず働く人も2010年には22.5%となっている。また、正社員希望の非正規雇用者が2010年で22.3%となる中、転職により非正規から正規になる人は約2割となっている。
- 一方、非正規の常用化が進む中、正社員への転換措置または慣行がある企業は全体の6割以上あり、企業は人材登用の一環として正社員転換を行っている側面がある。こうした中、企業は正規雇用を絞り込み非正規雇用を増加させてきたが、今後に対する企業の意識をみると、非正規雇用者の増加傾向に変化の兆しがみられる。
- 非正規雇用で働く労働者が抱える現状と課題に対しては、今後とも雇用の安定や処遇の改善に向けた取組を進めていく必要がある。